履いてください、
haite
kudasai
takamine san
鷹峰さん
柊裕一
Yuichi Hiiragi
4

履いてください、鷹峰さん
Please put on, Takamine san
柊裕一
Yuichi Hiiragi
4
DL-Ra

Contents

予備校の夏期講習初日
帰り道のこと――
はぁー…疲れたね…
ねぇーもうクタクタだよ
あら…
いま帰りかしら?
私も散歩の帰路だったの
…奇遇ね?
第20話 ちょっと忠言させて
DL-Ra

ガヤ
ガヤ
ガヤ

疲れたでしょう？ どこかで休憩でも…
あ それじゃあさー よく行くファミレスがあるんだけど
…一応 会長から誘ってたけど…

でも 会長…エリちゃんのこと どう思ってるんだ…？
ところで―― 公園を通りがかったら 何やらとんでもない 痴態の一片を目撃 したようなのだけど…
あなたこそ そのお尻の 軽そうな女性と ナニをしていたのかしら？
売春？
違いますよ!?
会長って基本的に誰に対しても 強い感情は出さないのに この間の公園では……――

いらっしゃいませー

エリィ あんた よく飽きずに 来るね…
ガヤ
ガヤ

へへへ 今日は 予備校の帰り なんだ
ふうん…

で
ご注文は?
とりあえず 山盛りポテトに ドリンクバー 三つで!
かしこまり ました——

ああ
今日はあと 一時間で 上がるから
了解～～!
ガヤ

知り合い？
あの店員さん
うん 同じ高校なの
ここだけの話ポテト特盛りにしてくれるんだ…！
それでこのファミレスにしたのね
私の奢りってコトで！みんなで食べよ！
いいの？ありがとう！

ごめんなさい、私炭水化物控えてるから。
あ そーだったんだ！
ごめんね！
てか高嶺ちゃんめっちゃスタイルいいもんね～
努力してんだ

あ うん 一年の復習から やってくれるから 何とか 付いていけそうです

——そう

ワイ
あとは知り合いが 同じクラスだからあんまり 緊張しなくて助かったかな
あ それ 私もー！
ワイ

てかさ まさか高校生になってまた一緒に勉強するなんて思わなかったな
小学生の頃はよく一緒に夏休みの宿題してたけどさ～
…へえ？白田君は女の子と勉強するのが好きなのね
え？
この間も勉強を教えてほしいって私の家に押しかけてきたものね。
両親不在の状況にも関わらず…
※11話参照
はい!?

いいや
あの時は…
そーなんだ!
やっぱ高嶺ちゃんて
昔も今も頭
イイんだねー!
あの頃 高嶺ちゃんが
いてくれればなあ――
結局宿題
放り出して二人で
遊んでた記憶しか
無いよ
どうかしらね?
私がいたとしても
白田君の飽き性は
手に負えなかった
かもしれないわ
この間だって…

「勉強に集中できないから気分転換させろ」って猫のコスプレを強要してきたものね。
え!?
い…いや確かあれは会長が自主的に
へーっ楽しそう!ハロウィンだったの?
ハロウィン?

え？ いいじゃん 昔はよくお泊まり会したじゃん！
お互いの家でさ〜
——エリィさん
それは危殆に瀕する提案よ？ だって——
ミシッ…

そのあと彼 台風で帰宅できないことを言い訳に一泊した上に
ぎゃ…逆でしょ!? あれは会長が雷に…
雷が… 何かしら？
ぎゃあ――っ!!
裸身を晒した私を押し倒してきたんだから
らしん？って何？
ちょちょちょっと――!?
良かったー!! 伝わってない!!

あ あの会長…
どこか調子が悪いんじゃ？
ピリピリしてると言うか…
！
…気を張るのも当然でしょう？
過去の純粋な白田君しか知らない彼女に
現在の彼が如何に欲に塗れた卑劣漢か
蒙を啓いているのだから
いや半分くらい捏造じゃないですか!?
あら？そうかしら…
記憶に齟齬があるようだけれど…

少なくとも
耳を傾ける価値は
あるでしょう？
現在の白田君を
より理解しているのは
彼女より私なのだから
！

いやでも…
……

24

それじゃ
また…
エリィさん
白田君の言動には
十分注意して頂戴ね？
まだ
言ってる！

あ
高領ちゃん！
ちょっとだけ二人で
話せないかな？
？

コウちゃんはまた
明日予備校でねー！
え
う…うん

な…何だろ
会長とエリちゃんを
二人きりにして
大丈夫だろうか…

…何かしら
話って…
ごめんね
高嶺ちゃん
気付かなくて
?
何のこと…
私がコウちゃんのコトが好きで
ちょっかい出してないか心配で
予備校まで見に来たんだよね?

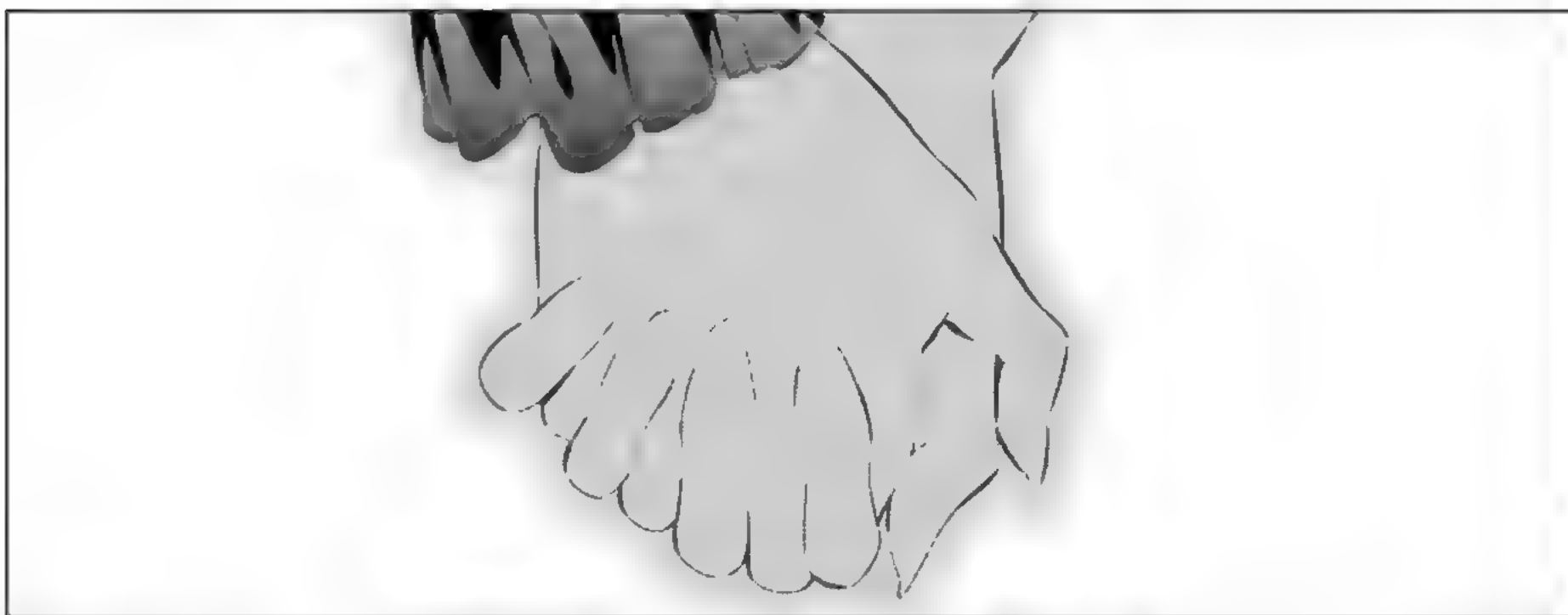
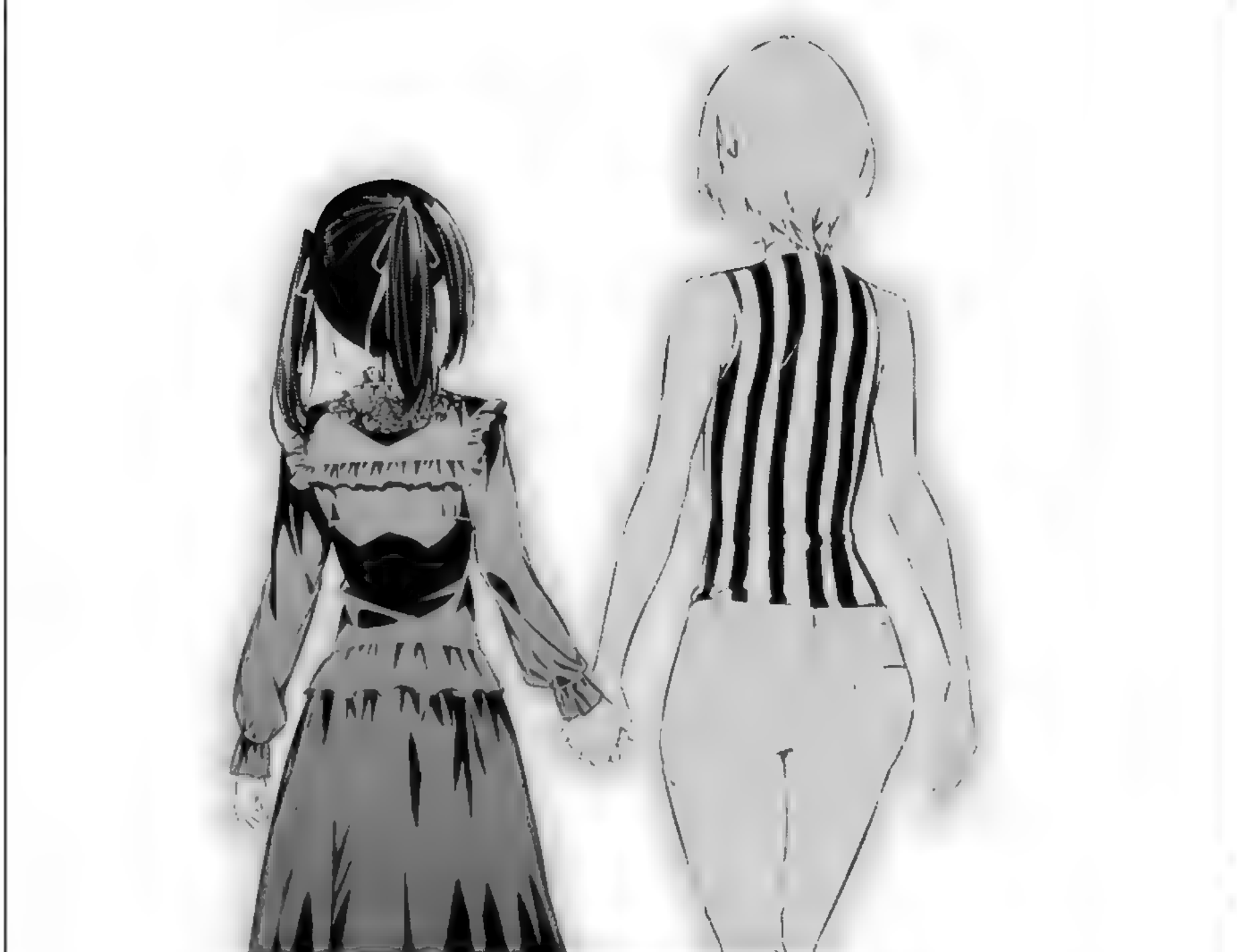
カァー

な…何を言って…
てか私 またやってたよね… コウちゃんとの昔話楽しそうに話しちゃって… ホントごめん! 嫉妬させちゃったよね
まッ待ちなさい! 推論に推論を重ねて勝手なことを—
でも安心して!

コウちゃんのことは
全然そういう感じじゃ
ないし
私
恋人いるから！
…そ
そうなの
…？
うん

てか私としてはコウちゃんより高嶺ちゃんの方が…
なんちゃって
…は？
エリィお待たせ
ガチャ
あお疲れ様！
じゃ私帰るね
高嶺ちゃんも気を付けて帰ってねー！
え…ええ

あら…何？
待っていたの？
渋谷駅前の
銅像みたいな顔して
ハチ公ですか!?
僕は

えと…
何を話してたんです？
……

白田君が如何に性欲の権化であるかの講習会。
冗談よ
些末なことしか話していないわ
そ…そうですか
え!?冗談ですよね…!?
――まあ
押しなべて言うなら…

彼女のことを
邪推しすぎていたと
わかったくらいかしらね

夏休みも終盤に差しかかったある日――予備校帰りのこと
火急の用があるわ。予備校の帰りに例の公園に来なさい。
会長から「火急の用」があると呼び出されたのだが――
ハァ
ハァ
会長どうしました!?
水風船合戦をするわよ。
火急とは!?

第21話 上書きさせて

この水風船 あなた達が置き忘れていったものを私が回収していたの
あっ そうだったんだ… スイマセン
でもどうして僕を呼び出したんです…？
高校生にもなって年甲斐もなく女子と水風船遊びをしていた白田君なら
臆面も無く喜んでくれるんじゃないかと思ったの
まあ 私の善意と思って頂戴
善意で言ってる感じがしないんですけど!?

ルールは…より多く水風船を当てた者の勝ち
勝者は敗者に一つ命令ができる…ということでいいかしら？
ほ…ホントにやるんですか？

何？あの娘とはできて私とはできないと言うの？
いいいいや！そういう訳じゃ…

何だかんだで開始――
会長が相手じゃまじめにやったって勝てないだろうけど…

でも万が一にも会長をずぶ濡れになんてできないから…
敢えて敬遠気味に…！

きゃっ

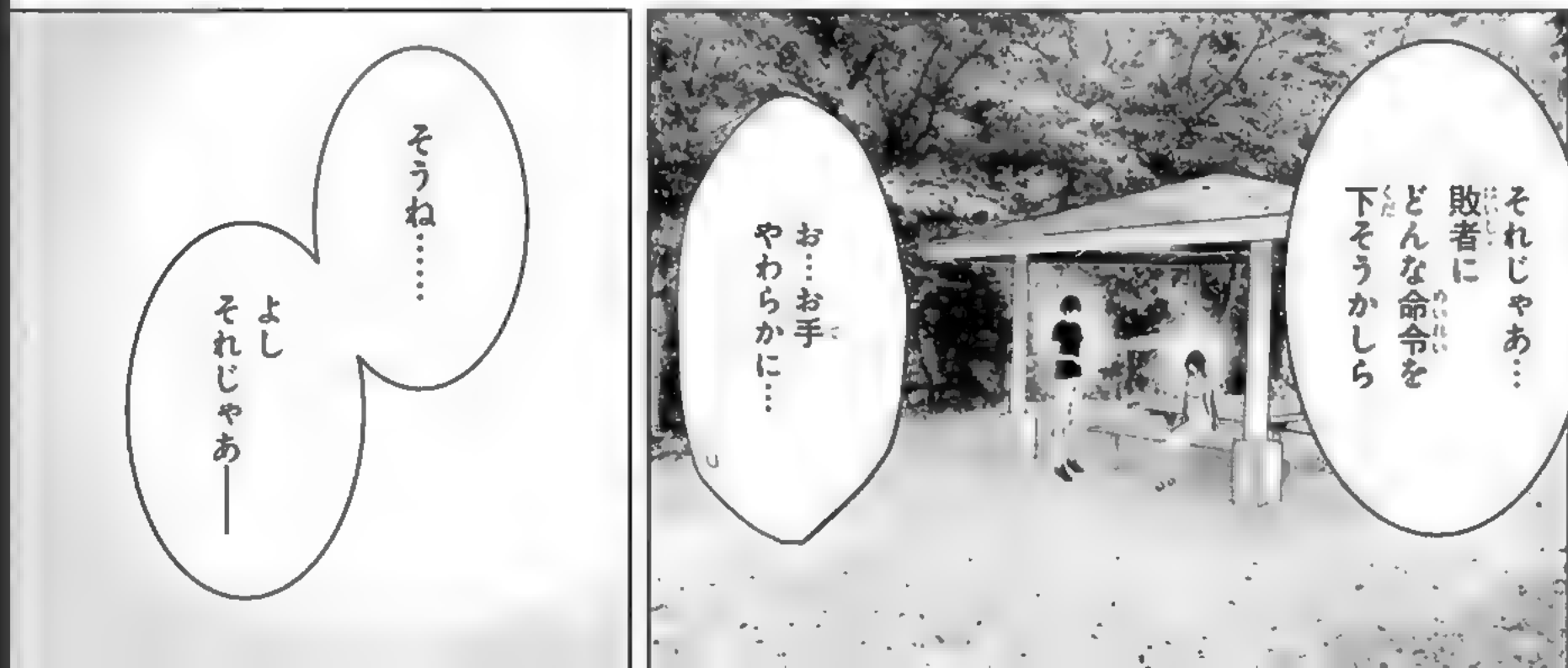
ブラが透けてしまったわ…
狙ってやったの?
テクニシャンね
…ってあれっ…このシチュエーション
どこかで…
あ そうだ エリちゃんと
遊んだ時に──
でもあの時は確か
ブラが透けたどころじゃ
なかったんだよな…
わっ!? す
すいませ…

何？ その心ここにあらずな表情は…
まさか透けブラ以上の経験をあの時彼女と…？
!!
えっ…ま…まさか会長…あの時のエリちゃんとのコト最初から見ていたのか…!?
い…い い い いや別に!? そそそんなコトは…
あはは…
……

うぎゃあ――――っ!!

もう少し接戦を演じて弄ぶつもりだったのに…つい瞬殺してしまったわ

私の勝ちということでいいわよね?

は…はい…

汗をかいたから
舌で舐めとって
もらおうかしら
はは はい？
なんですか
それ……
…って…あれ…っ
これもあの時の
シチュエーションに
似てるような…!?

そ… そうなのか…？

なならそんな アブノーマルなコトじゃ なくても…ほら ここ 公園ですし それに僕が 舐めるなんて…汚いし

大丈夫よ ここには 私達しかいないし… それに

汚くなんて ないもの

——え？

帰ったら消毒するから

ならやめた方がいいんじゃないですかね!?

何？ 女性に首筋のアイスを舐められるのは良くて自分が舐めるのは嫌なの？ このジェンダーレスな社会的風潮に真っ向から立ち向かうつもりなのね

やっぱり根に持ってる!?

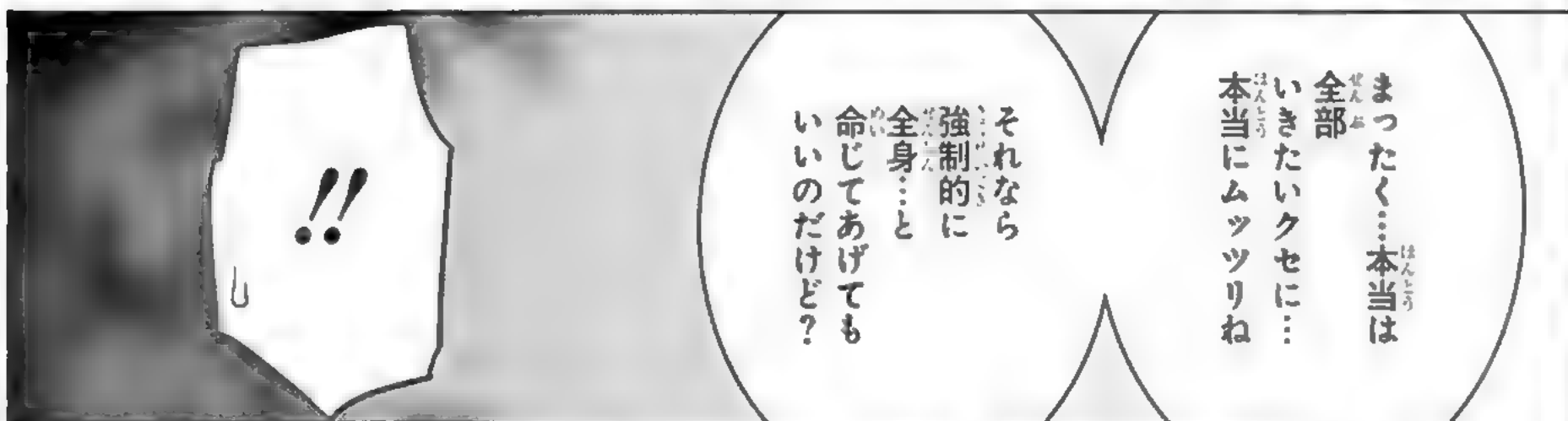
いッいや そういう訳じゃ…！

なら粛々と遂行なさい

例えば服の下──
脇の下とか胸元…
お腹…それと
内股──

舐めるなら
このあたりかしらね

特別にこの中から
一か所選ばせて
あげるわ

いや全部無理ですって!!

まったく…本当は
全部
いきたいクセに…
本当にムッツリね

それなら
強制的に
全身…と
命じてあげても
いいのだけど?

!!

会長はこうと決めたら
テコでも動かない性格だ…

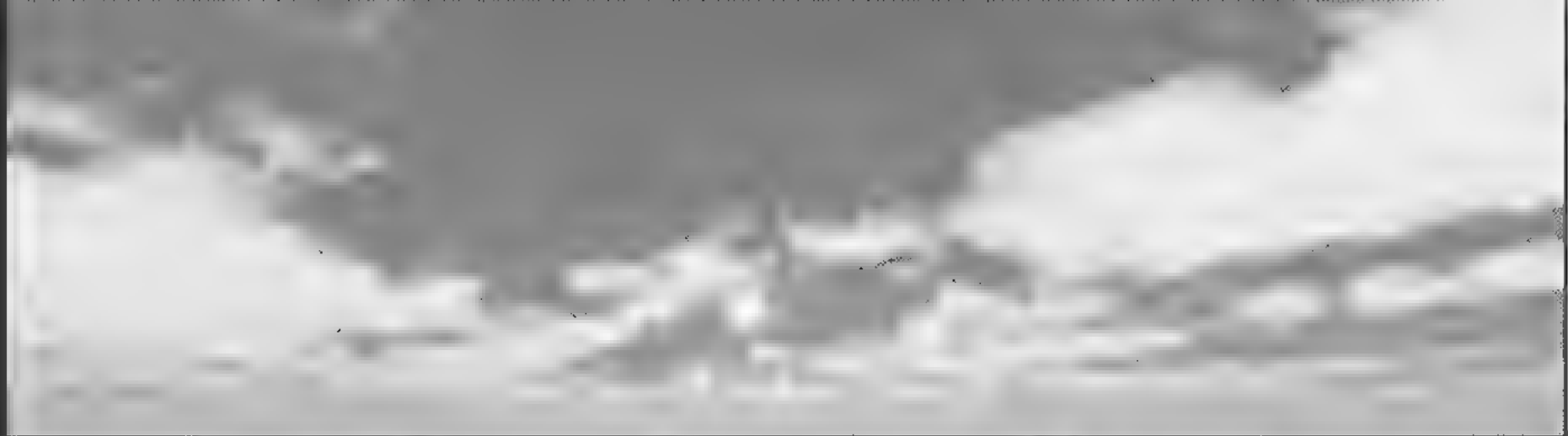
これ以上無茶振りをされない
うちに……

あの選択肢なら
お腹が一番
普通かと思った
けど……
ドッ
ドッ
冷静になれば…
全然
普通じゃない…!!
ドッ
ドッ
ドッ
エリちゃんの時は
突然だったし受け身
だったけど……
ドッ
これは自分から能動的に…
か…会長のお腹を……
ドッ

会長の肌…透き通るようで…
いい香りで——

汗臭さなんて
みじんも感じない

…この肌をつたう…
水滴を……

さあ——
早く

お疲れ様ペロ田君
なかなか上手だったわよ?
ああ それと──念のためもう一度言っておくけれど
「なぜこんな事を?」なんて深く考えないことよ
最近白田君をかまってあげていなかったから相手をしてあげた…それだけの理由なのだから
──まあ でも…
今日の体験が刺激的すぎて──

あの娘との公園での記憶を上書きしてしまったらごめんなさいね？

クスッ

なかなかの佳景じゃない
僕 初めて来たけど…良い所ですね
夏休み最終日
僕達は県内のレジャー施設を訪れていた
第22話
私にヤらせなさい!!

心行かしには丁度いいわね

さ 行きましょう

うん

夏期講習が終わったらその後は会長が勉強を見てくれる――
特にお礼はいらないって言ってたけど――…

それでも何らかの形で恩返ししたい！
今日は会長をもてなして…
ゆっくりと楽しんでもらうぞ!!

ここのHP見て予習してきたし!!

どこから回る？希望があるなら聞いてあげるわよ

あ それなら！

飲み物を買ってから回りませんか？

すぐそこにテイクアウトできるカフェがあるらしいんで

そこの店のドリンクチケット二枚分知り合いから貰っていたの
感謝なさい？一杯ご馳走して――
買ってきました！
ブラックで良かったよね？
え…代金は
あ僕の奢りってコトで！
今日誘ってもらったお礼です！
………

未だ穢れ知らぬ乙女
!?
今日はバニララテの気分だったの
クローゼットなら
主人の一番望むものを
察して持ってきなさい
ほら この
チケットを
恵んであげるわ
は
はい
?

何をぼさっとしているの
早く履かせなさい
え…あ…
はいっ
…会長から物陰に
移動してくれた？
こんなこと滅多に
無かったような…

次はどうしましょうか
この先に北欧雑貨のお店があるらしいんで覗いていいですか?
ええ いいわよ

へぇ 可愛らしいわね
あ ホントですか?

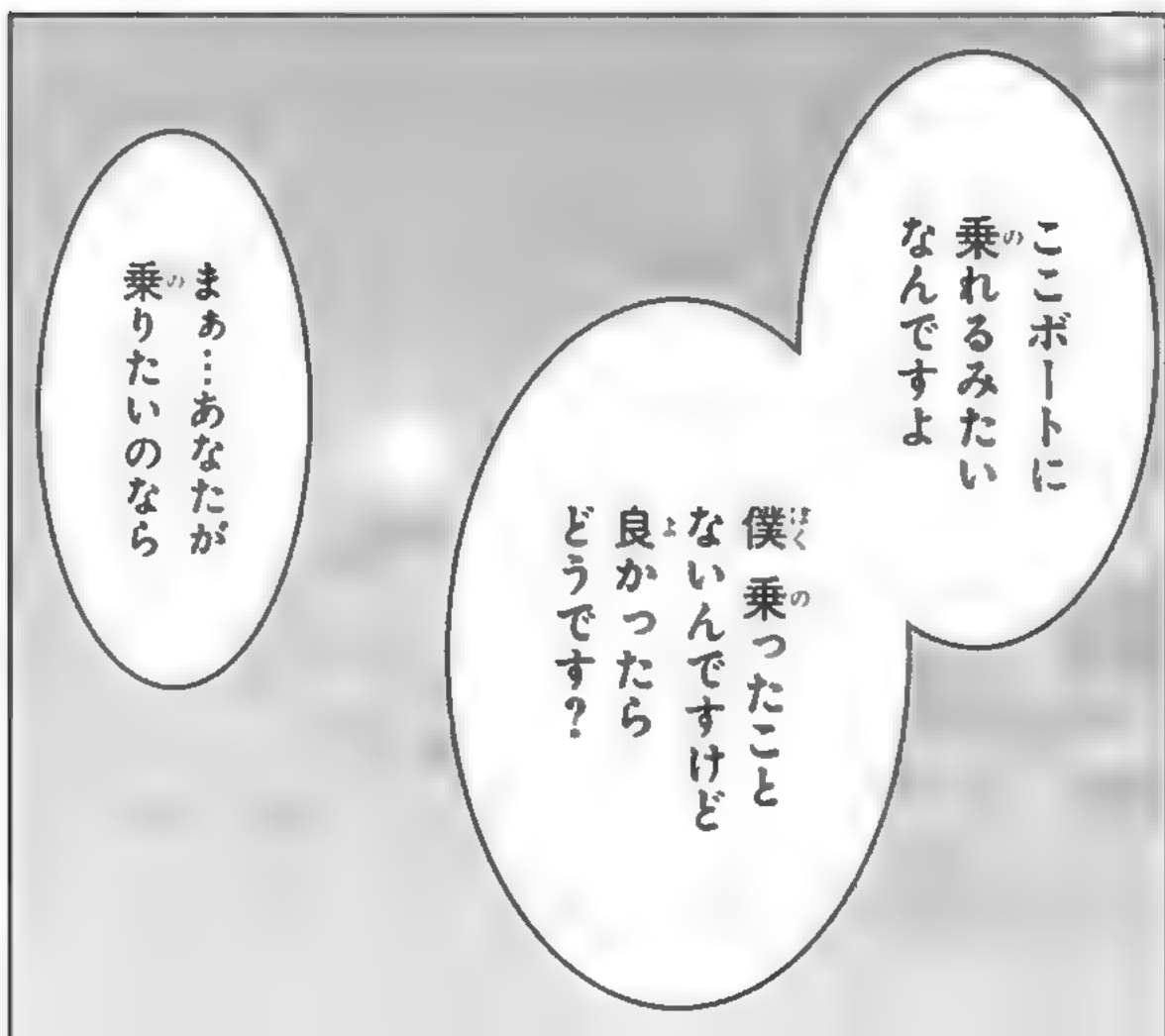
…よし!

あすいません ちょっとトイレに…
ええ

あなたは何か目ぼしい物はあった？
木彫りのコースターとか良いなと思いました
可愛らしいとは言ったけれど必要無いわ
会長もさっきのぬいぐるみ気になってませんか？
いえ、別に。
…え？
ぬいぐるみを眺めるなら鏡を眺めていた方がよほど心安らぐもの

……
ガサ
え…あ…
すすいません…
実はさっき
今日誘ってくれた
お礼ってコトで…
会長に
プレゼントとして…
あぁあの
会長…？
未だ穢れ知らぬ乙女

あなたから施しを受けるくらいなら

逆に私が恵んであげるわ

1500円です

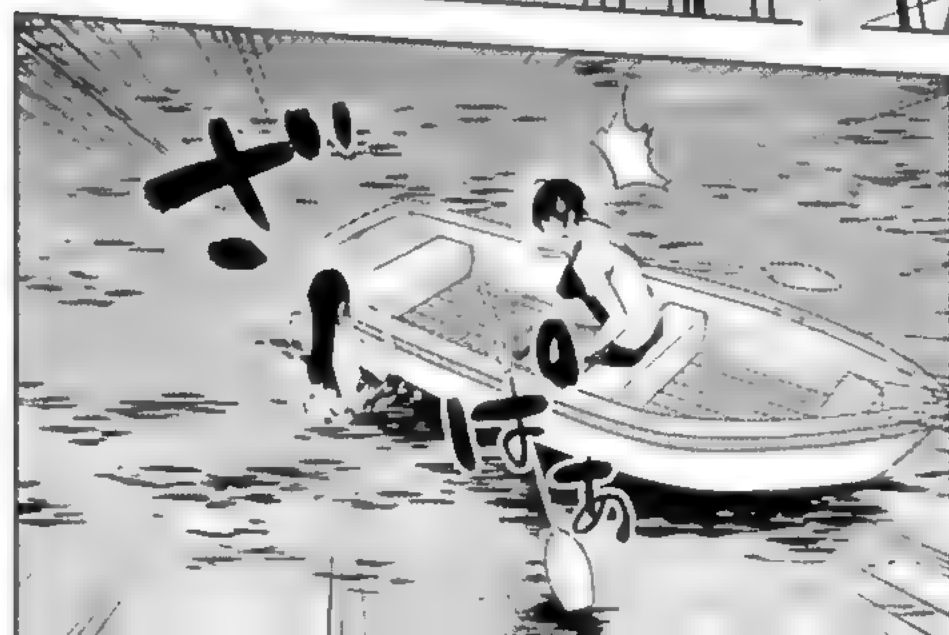
なぜ!?

…良かれと思ってだったんだけどなぁ…

気持ちいいですね——
なんというか浮遊感が…
まあ…そうね
思ったより
乗り心地が良いのね
ボートって
あれ？
会長もボート
初めてなんですか？
いろいろ
経験豊富だから
乗ったコトあると
思ってました
！

わ…私にだって
初体験のコトくらい
あるわよ
ドキッ
いっいえ…
悪い？
そんなことより漕ぎ手
代わってあげるわ。
疲労困憊の様相を
見るのも不愉快だし
！

会長・喜んでくれてるみたいだし
もっと速く漕いだら風も感じられてもっと楽しんでくれるかも…
いや まだまだ大丈夫です！
……
！
ちょっと――私が代わってあげると言っているのだから…！
あ いや！ホントに大丈夫です！

ええ――!?
カッ 会長っ!?

ああ驚いた。
うっかり足を滑らせて
落水してしまったわ
い…いや明らかに…
故意じゃ
こんなコトで
能力を使うのは
不本意だけれど。
濡れたままと
いう訳にも
いかないから
やり直すわ

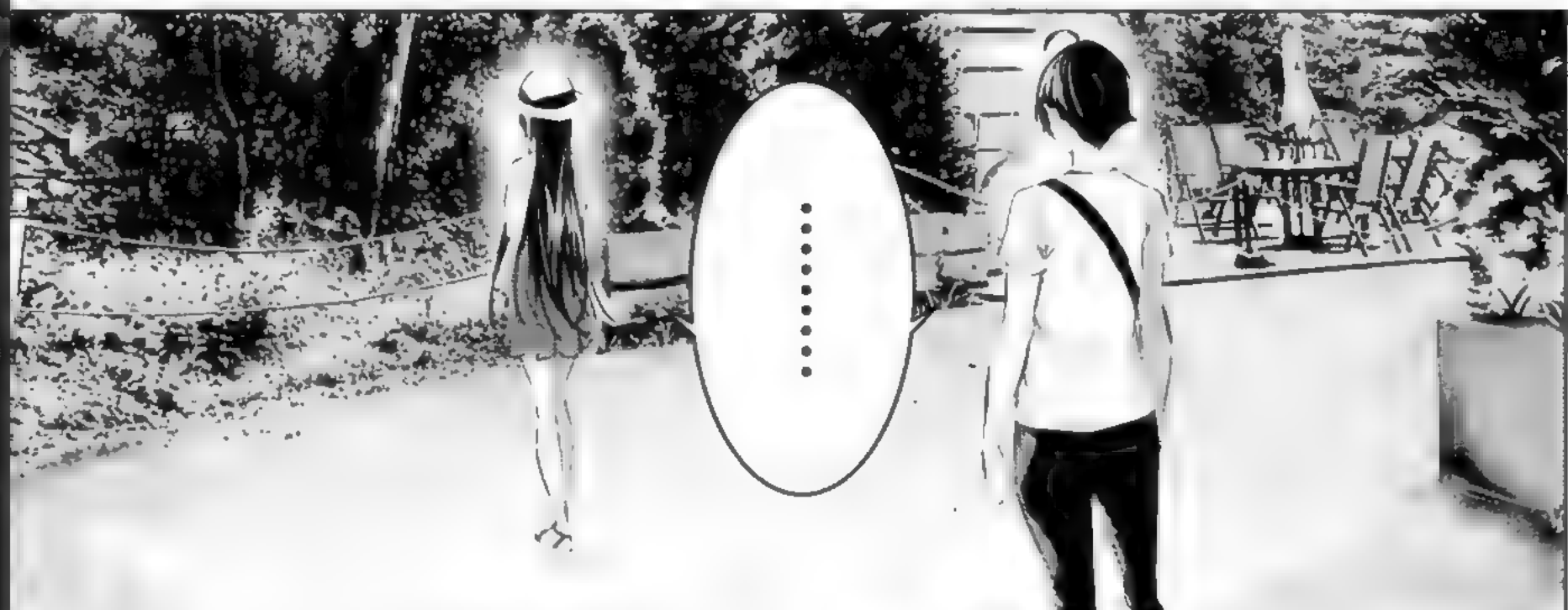
ボートに乗る前にやり直したのか…
あれ？会長は…っ
…まったく…

あ あの 会長… 何を——

“何”じゃないわよ 何を呆けた顔をしているの

ほら 次はどこを回りたいの？ モタモタしていたら一日が終わってしまうでしょう

え えと… じゃなくて——

何で自分で履いて──？
え？
──…！
ヤ
ア
ア
こっこれは…あッ
あなたが愚鈍だから待ちきれなかったのよ！私の手を煩わせたこと猛省なさい！
すっすいません!!
キュ

…会長をもてなすつもりだったのに…なんかどんどん不機嫌にさせてる…
な…何がいけなかったんだろうか…
………
…だって…
焦りもするわよ
あなた何故だか妙に肩肘を張っているのだもの
そんな調子じゃ疲労感だけを残して今日が終わってしまうわ

せっかく私が労ってあげようとしているのに。
──え
一か月夏期講習を頑張ってくれた…ご褒美──
もしかして──

何をぼさっとしているの
早く履かせなさい
え…あ…はいっ
今日会長がなんか変だったのって——
あなたから施しを　け　くらいなら
逆に私が恵んであげるわ
150円です
もしかして僕のことを気遣ってくれて——
なぜ!?
…何？
その鳩が豆鉄砲を食らったような顔は

わ…私がわざわざ慰撫してあげようというのよ
ありがたく受け取らないなんてかえって罪というものだわ
キュ
…あ
ありがとうございます

でも 大丈夫です！

…？

僕はもう十分に良くしてもらってます
受験勉強を見てもらえるのは勿論だし
何より会長のおかげで前向きになれた…それに

昨日の晩
「明日はこうしたら会長は喜んでくれるんじゃ」って
考えて実践して…

それだけでもう十分
僕は楽しめてます
…へえ?
随分とキザなことを言ってくれるじゃない?
えっ
い ってました…っ

それに白田君ごときが私を喜ばせようだなんて
随分と低く私を見積もってくれたわね
いっ⁉ いやっそういうワケじゃ…！

——本当に

生意気だわ
じゃあ…お言葉に甘えて
この後のプランを
伺おうかしら？
じっくり楽しませて
くれるのでしょう？
う…っ
改められると…
自信が…

履いてください、
鷹峰さん

Haitekudasai Takaminesan

二学期が始まり数日――
夏休みの余韻もそこそこに
生徒達の関心は
ある行事に向いていた
10月初頭に
開催される文化祭である
文化祭まで
あと…
1ヵ月
ちょっと
――といっても
心待ちにしているのは
カースト中、上位の生徒であって
日陰者の僕にとっては
「丸一日授業の無い日」
くらいの心持ちであったのだが――
おはよう
第23話 さあ、手を挙げなさい

今日も朝だというのに
活力の欠片も無い表情ね
まるで出涸らし…
出涸らし白田君
今日のLHRは
演劇の配役決めよ？
もう少し期待を
持った表情をしても
いいんじゃないかしら
朝一で変なあだ名
付けないで下さいよ！
は　はあ…
そう　僕らの
クラスは文化祭で
演劇「シンデレラ」を
上演することとなっており、
今日
配役決めを行う
ことになっていた

いやあ…日陰者は日陰者らしく裏方でもやろうと思ってるんで…
照明とか美術とか
……
去年のあなたのクラス確かお化け屋敷だったかしら
その時も演者じゃなく呼び込み係をやっていたわよね。つまらなさそうに
……
ああ…文化祭って僕みたいなのが楽しめるイベントじゃないんで……というかよく覚えてますね
全生徒の動向はおよそ把握しているもの
生徒会長として当然でしょう
当然かなあ…
悪いけれど今年は演者になってもらうわよ
え!? な何で──

私がシンデレラとして
一番の演技をするには
クローゼット君のサポートが
必要でしょう？
裏方が登場して
パンツを履かせていたら
不自然じゃない
いや演者が
履かせてても
不自然ですよ!?
まあ　そういう訳だから
役決めの際には
いつでも履かせ易いよう
登場回数の多い役に
立候補なさいね
すすすすす
いいや
ちょ——
STAFF

ワイ

会長!

ワイ

ワイ

とりあえずシンデレラ役は会長以外ありえないと思うんで

先に確定しちゃっていいんじゃないかと!

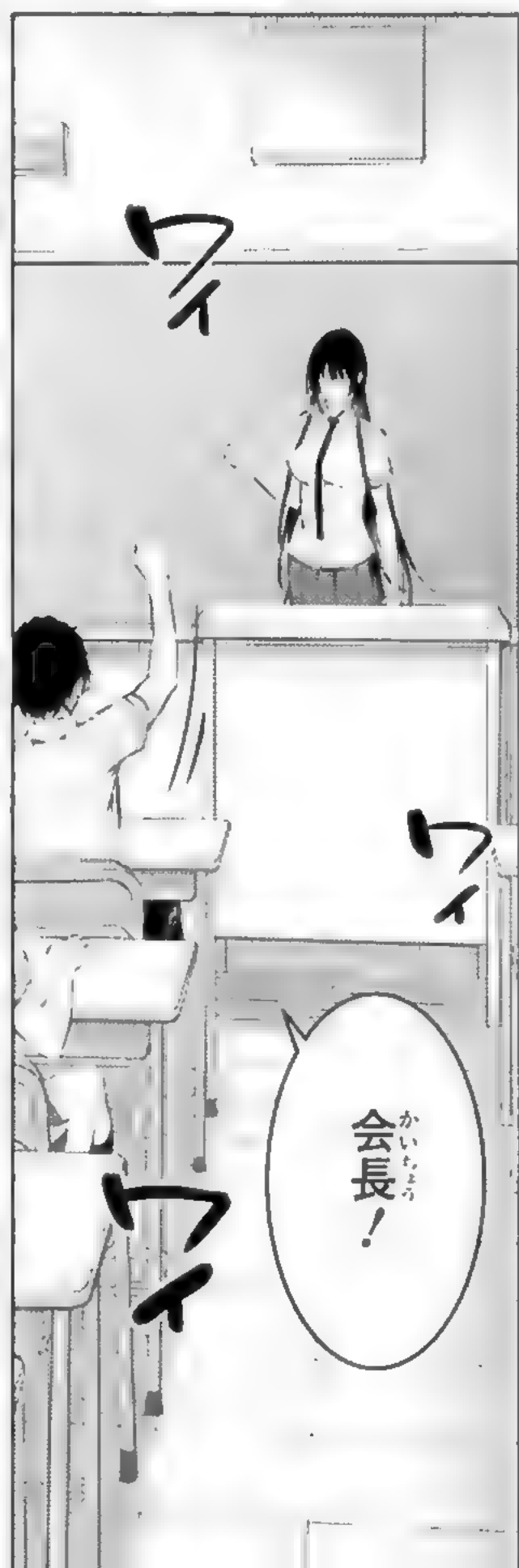
ガヤ

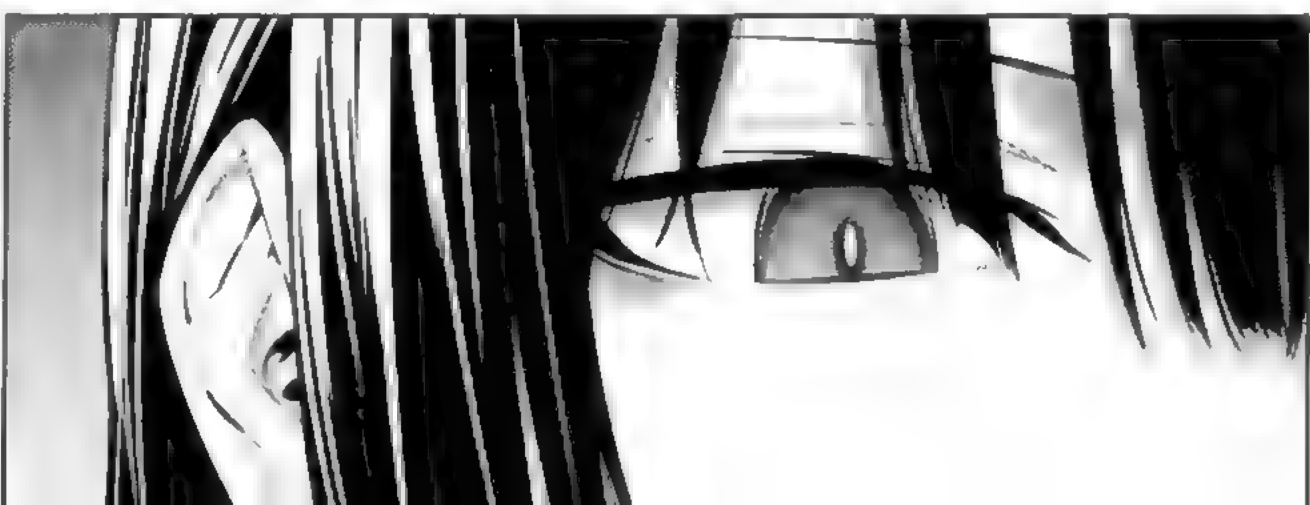
ガヤ

確かに会長がシンデレラなら集客間違い無いし!

いや それよか見たい! 会長のシンデレラが単純に見たい!!

ガヤ

ガヤ

ありがとう。そう言ってもらえるなら謹んで引き受けるわ
パチパチパチパチ
パチパチ
すごいな…立候補するまでもなく決定した
ワイワイ
ワイワイ
では――台本に記載されている順に決めていきたいと思います
ワイワイ
ワイワイ

まずは…スタッフから。音響係二名。希望者は挙手をお願いします
ワイ
ワイ
ワイ
音響か――比較的楽そうだな
会長はああ言ってたけど…本当に舞台上で履かせるなんて無茶やらない…と思うから
はは はい――
ワイ
ワイ

未だ穢れ知らぬ乙女
では 配役決めを行いたいと思います
会長！
とりあえずシンデレラ役は会長以外ありえないと思うんで──
ワイ
ワイ
!?
ほ 本気で舞台上でもクローゼットになれと!?
ワイ
ワイ

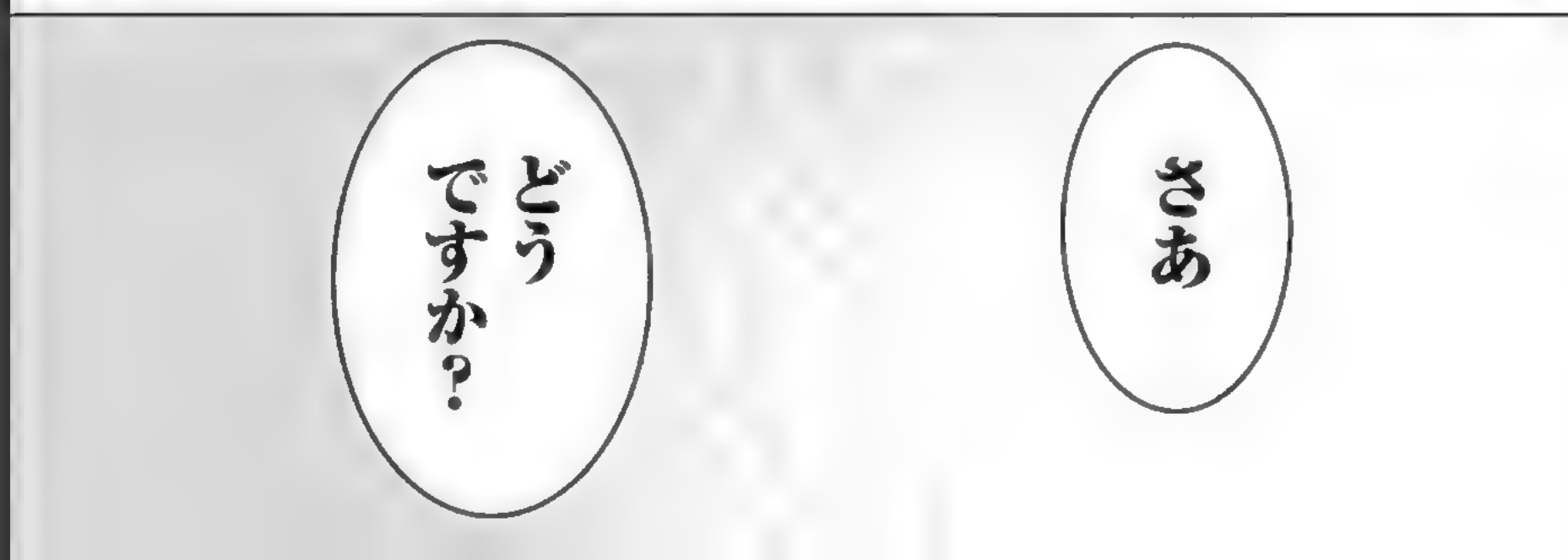
ああ 悪いのだけど 板書をお願いしても いいかしら
!? あれ？ さっきは 書記 なんて――……
ワイ
日直の―― 白田君？
ワイ
え
あ はい――
ワイ
ワイ
ワイ
そ そうか しかし 教卓の陰で 履かせろ……とか……？
では 次はもう一人の主役 王子役を決めたいと 思います！
おおぉ
んっ、 王子役？
ワイ
ワイ
さっきは 音響から 決めて…
ワイ
……って……

む…
!

ザワ
か　会長
あの…
ザワ

ザワ
……
王子役か…　セリフも出番も多いけど…
でも一時的に会長と恋人になれるってことよね…
しかも靴を履かせて差し上げられる……
ザワ
ザワ

さあ

どうですか?

立候補はありませんか？
──────!?
こ これは…
当たっているんじゃなく
〝当ててんのよ〟状態…!?
まさか王子役に
立候補しろと!?
確かに王子なら
出番も多い…必然
〝履かせる機会〟も多くなる
だろうけど…

はいッ!!立候補しますッ
なッ　なら俺もッ立候補しますッ
待ッ　なら俺もッ
会長にガラスの靴を履かせるのは私よッ
!?
他に立候補者はいないかしら?
そ…そんなコト言われても……!!
むにむにむに

ていうかコレ…
は履いてない状態の
お尻が擦れて…
マトモな
思考なんて……
ガ
ッ…
僕も
立候補させて
もらおうかな

ザワ
ザワ
お…王寺…
ザワ
ザワ
やっぱアイツ
会長狙ってやがったのか…

ザワ
ザワ
ザワ
ヒソ
このままでは彼が王子役になりそうね
―この際 彼に能力を明かして2台目のクローゼットになってもらうのも一案かしら…
ヒソ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
―――!?
ただ彼…私に好意があるようだし―
能力の秘匿を条件に何か迫ってくるかも…例えば―

エロ同人みたいな――
まあでも舞台で一番の演技をするためには些細なリスクよね
いや 価値感おかしくない!?
…会長が王寺に後れを取って弱みを握られる…とは思わないけど…
…でも…万が一ということもある……
ド…ド…
!!?
ド…ド…

それなら──…！
ぼッ 僕も立候補します！
──へえ？
マジかよ…度胸あったんだな白井…
だがそれは蛮勇だ…白井…
ざわ
ざわ
ざわ
ざわ
白田なんだけど…

では投票で決定したいと思います
無記名で投票をお願いします!
あああ——!!

放課後──
すすいません
王子役を取れなくて…
……
や…やっぱり機嫌悪い……
あああの…王寺をクローゼットにする…っていうのは…
は？冗談に決まっているじゃない
あなたを焚きつけて王子役に立候補させることが目的だったんだもの
へ…？

何故って…

王子の衛兵なら王子と登場回数は同じくらいだから——

王寺にクローゼットを頼まなくても僕がサポートできると思って……

…って…

どやや

え…!? 僕の行動まで読み切った上で…!?

掌の上、的ジェスチャー

──それに
また裏方に
引き篭られて
陰鬱な表情
見せられても
気が滅入るもの
新しいことにでも
挑戦すれば
…？
少しは積極的に
楽しめるでしょう

…あ
そういえば
どうしたの
あ いや…
僕が王子役に立候補した時点で会長の目的に達してたなら
投票で僕に入ってた一票は誰が入れてくれたのかなって…
……
さあ?

物好きがいたんでしょう

履いてください、
鷹峰さん

Haitekudasai Takaminesan

第24話 友人の話をきいてほしいの。
今日は月に一度ある
勉強会…
もとい 僕が会長から
勉強を教えてもらう日
ムスゥ…
——なのだが…

高嶺ちゃんの部屋めっちゃ綺麗だねー！
てか勉強会飛び入り参加させてくれた上にノートまで貸してくれてありがとね！
ひいいいいー…！

遡ること30分ほど前…
会長の家へと向かう
道すがら
偶然エリちゃんと出会った

会長の家で
勉強会する旨を
伝えたところ
「自分も参加したい」
とせがまれてしまい

今に至る

最初は数学から?
良かった〜
私数学めっちゃ苦手でさ
高嶺ちゃんに
教えて
ほしかったんだ〜

……

お勉強なら
あの彼女さんに教えてもらった
方が捗るんじゃないかしら？
あなたのような下賤…
間違えました
可憐な女性と付き合ってくれる
方なのだから
さぞ寛容な心持で
教導してくれるでしょうし
あー瑠理香ね
なんか最近バイトが
忙しいらしくてさ～
このところ遊んで
くれないいん
だよね～
遊び相手をお探しなら
幼稚園にでも
行ってみたら
どうかしら？
敵意がすごい…！

ん？ていうか彼女？
彼氏じゃないのか…
そういえばエリちゃん小学校の頃から女の子の方が好きって言ってたっけか…

早速だけどさ
この加法定理ってヤツ
訳わかんなくてさ〜

ふにっ

触!?った…？
いいや
偶然か…

ドキ
!?
ドキ
ドキ
確信犯!?
まさかエリちゃん…会長にナニかするために付いてきたんじゃ…!?
い…いやいや流石に邪推しすぎ…
白田君
ドキ
はッはいッ!?

ちょっとコンビニまでお使いを頼まれてくれるかしら
何か飲み物と軽食でも
あじゃあ私の分もお願い〜
お金は後で払うね
え…あ…
会長とエリちゃんを二人きりにしたらマズいんじゃ…色々な意味で…
でも…
ガチャ
はやく。
はいッ!!

丁度良かった〜
高嶺ちゃんと二人で
話したいコト
あったんだよね
それは奇遇ね。
私も言いたい
ことがあるわ
単刀直入に言うわね
帰ってもらえない
かしら？
そうだよね　コメンゴメン！
これだけ聞いたら帰るからさ
白田君とあなた
二人の勉強を
同時に面倒見るのは
些か面倒だから
…何かしら

コウちゃんとは
もう付き合ってるの？
ッ!?
……
…は？
なぜ私が白田君
なんかと
付き合わなければ
ならないのかしら
えーと
それって
まだ付き合ってないって
こと？

話を聞いて
いないのかしら…
あなたが何を
妄想しようが勝手だけれど
それを私に
押し付けないで頂戴
も〜いいじゃん別に
隠さなくたって〜
だから…
でもさ
コウちゃんって
鈍そうだから
高嶺ちゃん
苦労してそう
だよね
…!

コウちゃんって自己評価低そうだから高嶺ちゃんからどんなにモーション掛けても

う～む

それが「好き」のアピールって気づかなそうだもんね～

……

…そう言われれば…

こちらから積極的に…意を決して大胆にアピールしてみても彼の反応が弱いから――

女性として見られていないのでは…と不安になるの

あ やっぱり!?

…と、私の友人から相談されていたのを思い出したわ

猫のコスプレで
密着してみたり…
彼の入浴中に
乱入してみたり…
!?

羨ましぃ!!
!?
…これだけのことをされても反応が薄いと女性として見られていないのでは…と不安になるでしょう?
ちなみにその友人は佳麗にして艶麗な絶世の美少女よ
確かに手を出さないなんておかしいよ!!
あ…あなたもそう思う!?

はっ
やばやば…つい熱くなっちゃった…
あせ
あせ
でもコウ…その男子も一切無反応ってワケじゃないんじゃない？
例えば彼から何かしてくれたコトだってあるんじゃないかな
……
そうね…
それならいくつか…
友人の身を案じて夜中に公園まで駆けつけてくれたり…
自分の課題よりその友人の体調を気にかけてくれたり…
デートのプランを頑張って考えてくれたり…
…他にもたくさん――

その中でも
特に――
…と、
その友人が
言っていたわ
ぎゃああーっ!!
キュン死するーッ!!
一緒の大学に進学しようって
努力してくれていることが…
一番嬉しかったの
でも その男子――
取り柄も何も無い
平々凡々を絵にしたような
人なのに
誠実さだけは
変に人一倍で――

彼のしてくれる行動が好意からではなく単なる正義感なのではないか…
不安になる…らしいのよ
友人曰くね
いやもう全然悩む必要ナシー!!
!?
その友達に伝えてあげて!

フツーに生活してる上で
誰かに何かをしてあげたいって
思う時点で

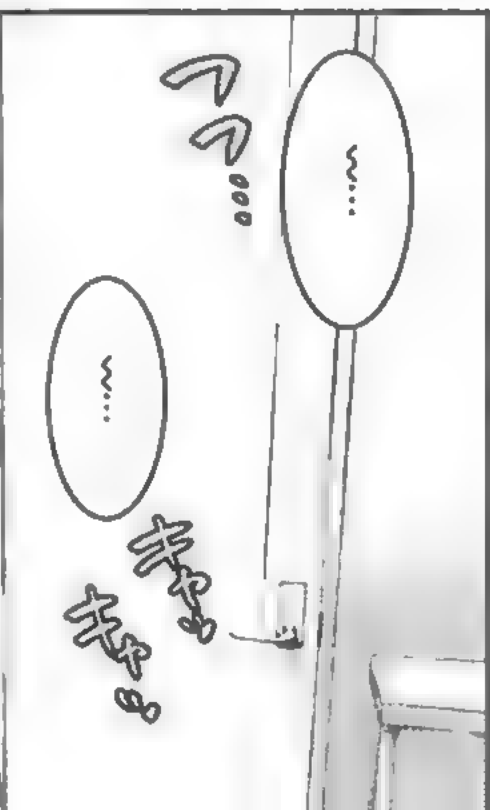
それは好きって
コトなんだよ

それに 苦手な勉強を頑張ってまで
一緒の大学に行こうなんて——

人生の大部分を
その人のために
使おうなんて——

好きじゃなきゃ
絶対できない

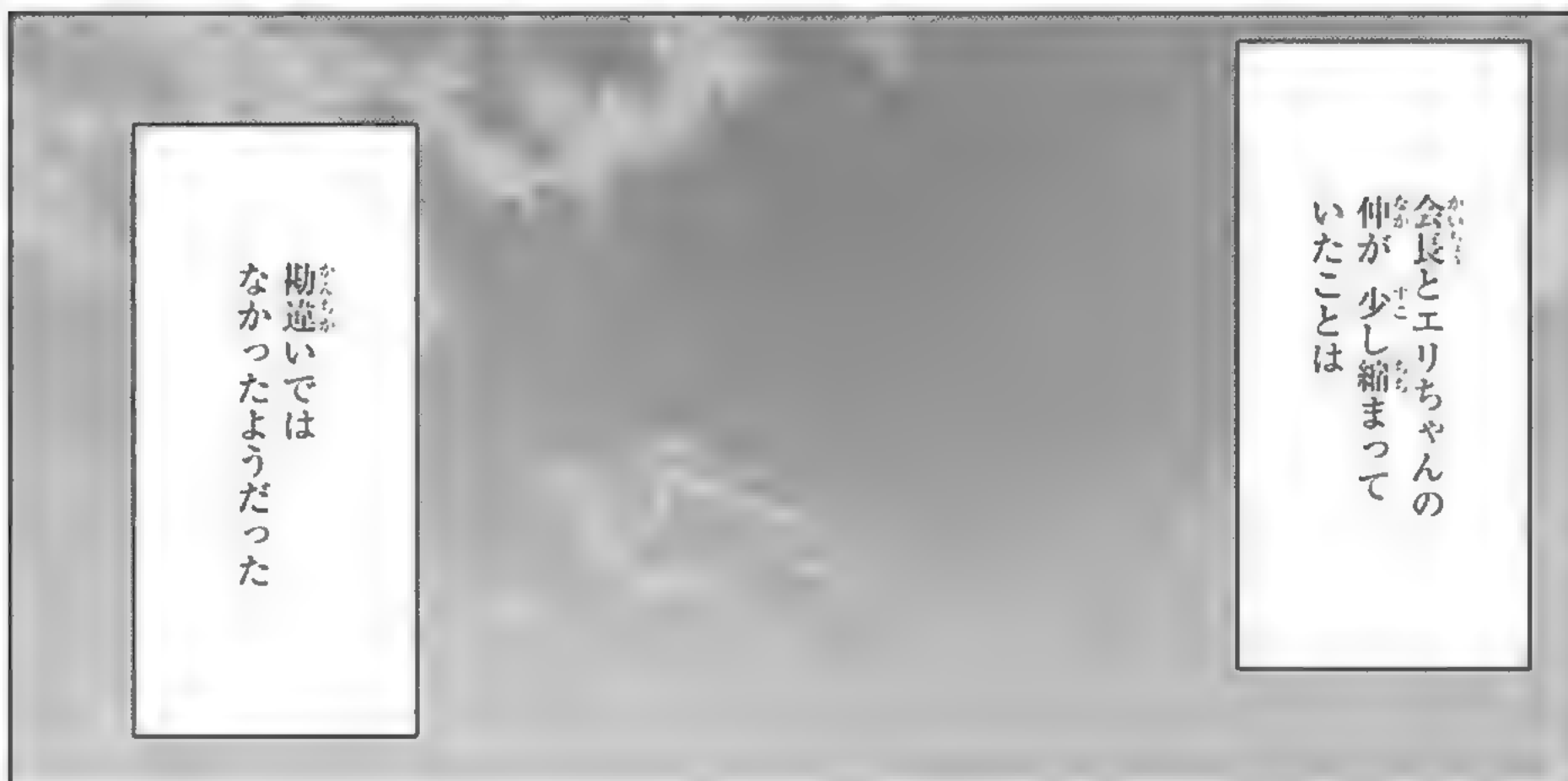
…まあ…
参考程度にはなったわ
──というか
その友人に伝えたらたぶん喜ぶんじゃないかしら…
うんうんぜひ伝えといて♪
こんなことをわざわざ話しに来たの？
ギクッ
ギクッ
てっきりどさくさに紛れて私の胸を触りに来たのかと思っていたわ

ごごごめんッ!!
そんなつもり無かったんだけど
触れそうな感じがしたら
つい手が…!!
よく今まで
捕まらずに
生きてこられたわね
痴漢じみたことを
しなくても
正直に申し出れば
触らせてあげるわよ
……え!?
いいい
いいのッ!?
人前でなければね
あなたに触られても
何も思わないもの
!

お邪魔します…
買ってきましたよー
キャ…

あの二人…大丈夫だろうか…
もしエリちゃんがふざけ半分で会長に手を出したりしたら…
ほぎゃ～っ
おそらく会長は容赦ない制裁を…

～…
フフ…
～…
キャッ
キャッ
…なんか賑やかだぞ…
何を話して…
めっちゃぷにぷに～！柔らか～！
あまり揉まないで頂戴。くすぐったいでしょう

めっちゃぷにぷに〜！
柔らか〜！
あまり揉まないで頂戴。
くすぐったいでしょう
ふにっ
ふるっ
!?
い…今の会話は…
まさか…い いや
流石にそんなコト…
あんっ♥
くすぐった…♥
お腹
舐めちゃ…
ふふ…
普段はこんなこと
しないのだけどね？

あんっ♥くすぐった…♥
お腹舐めちゃ…
ふふ…
普段はこんなこと
しないのだけどね…？
!?!?

会長とエリちゃんの仲が少し縮まっていたことは

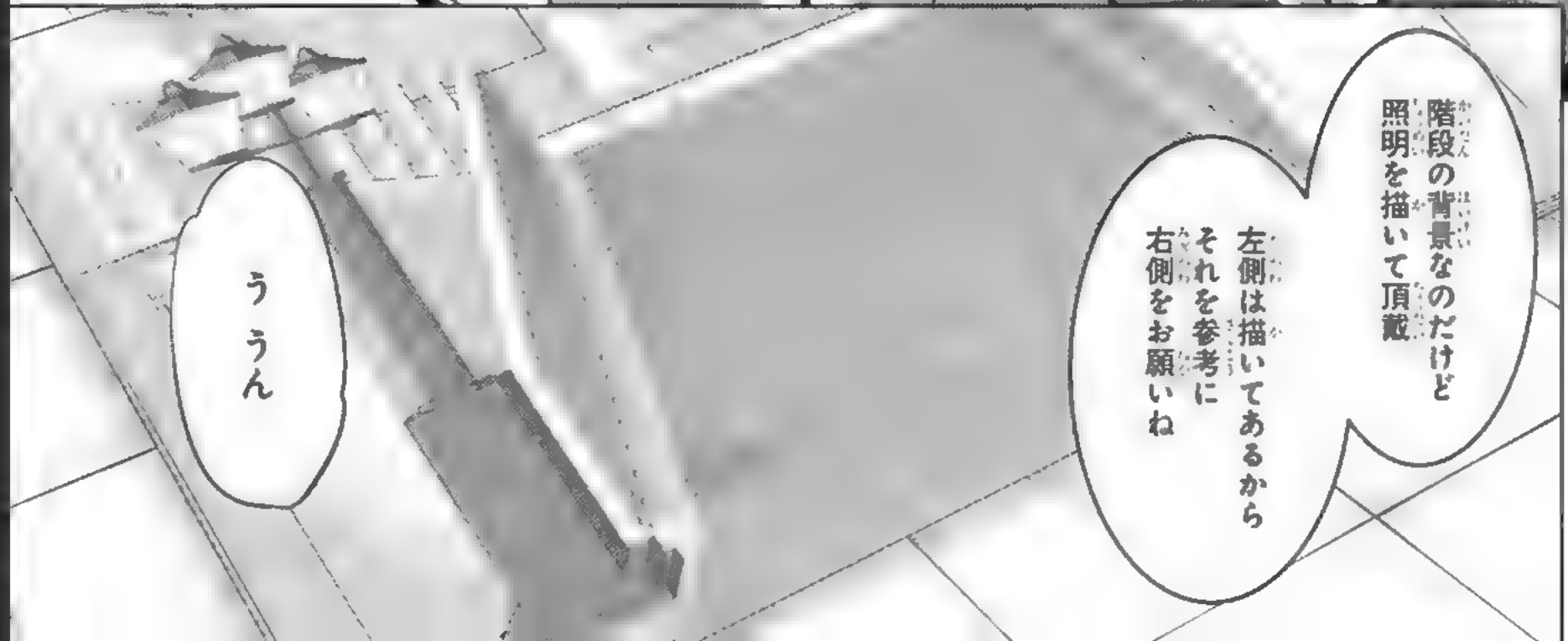
勘違いではなかったようだった

履いてください、鷹峰さん

Haitekudasai Takaminesan

明日はいよいよ本番です！
手の空いた人は適宜ヘルプが必要な班のサポートに回って——
皆で協力して最後の追い込みを掛けましょう！
ワイ
ワイ
ワイ
パチ
パチ
パチ
第25話 言わせてほしいの

僕達のクラスは　文化祭で
上演する「シンデレラ」を
成功させるべく
放課後やLHRの
時間を使い準備を進め――
いよいよ本番を明日に控えた
前夜祭を迎えた
ごめん会長
手空いてたら背景セット
手伝ってくれない？
ええ　大丈夫よ
他にも
手が空いている人
いたら協力してもらえる
かしら？
あ　私やりまーす
俺も
もうすぐ終わるから
手伝うよ！
ポロ…
僕も――
っ!?
あッわりー
白木！

…まっまあ…僕の手助けは必要無いか…
だ大丈夫…
白田君あなたも手が空いているでしょう？手伝って頂戴
階段の背景なのだけど照明を描いて頂戴
左側は描いてあるからそれを参考に右側をお願いね
うん

おい…今
白井のヤツ
会長にボディタッチ
されてなかったか…？
ゴゴゴ
なんであんな
影うっすいヤツ
か…!?
いや…
会長は女神のような御方
白井がぼっちで
浮きまくってて哀れだからこそ
声を掛けられたんだ…
圧がすごい…
…でも確かに
会長が皆の面前で
僕に絡んでくるって
あんまり無かったよな…
何か意図が……？
ちらっ
？
どうかした？
ドキーッ！
い…いいえ…

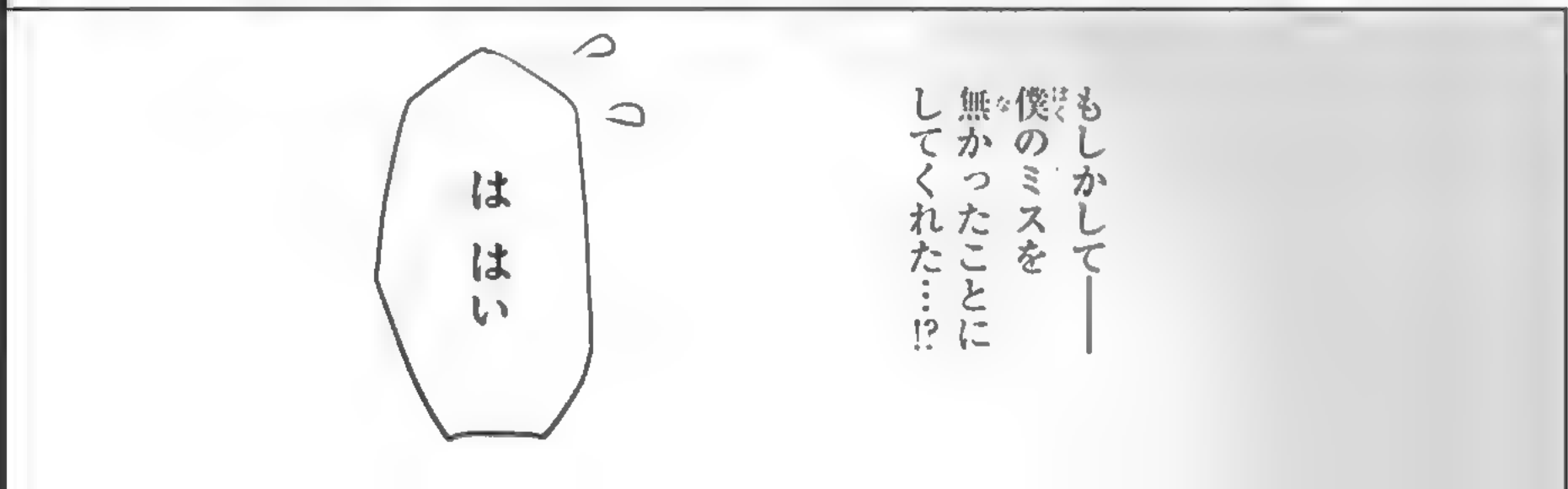
…ん？
あれ!?
ちょっと白井
お城の照明左右同じに
なってるじゃん！
…え？
あ…!!
ごっごめん!!
すぐ直すから…
あー いやもう
時間無いから
そのままでいいよ
…！
ぼーっとしてないでよね
あちゃ～
やってんな～

未だ穢れ知らぬ乙女(エターナルバージンロード)

白田君
こっちこっち

!

もしかして——
僕のミスを
無かったことに
してくれた…!?

は
はい

あの階段は　私が靴を落とす重要なシーンなのよ？
完璧に完成させなさい
ですよね…
わかったなら早く
ザァァァァ
は…はい

会長ーっ

ガヤ

あれ？ 会長ー？

ガヤ

!?

セットの裏側に問題が無いかチェックしていたの
何かヘルプが必要？
あ そっか
うん チェックが済んださ
背景セットのヘルプお願いしたいんだけど大丈夫？
どうしてこの状況で普通にしてられるんだこの人ー!!
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ

ええ もう済んだから
手伝うわ
!!
!!
待っ…
まだ中途半端な状態…！
他にも
手が空いている人いたら
協力してもらえるかしら？
あ 私やりまーす
俺も
もうすぐ終わるから
手伝うよ！
ポロ
あっー

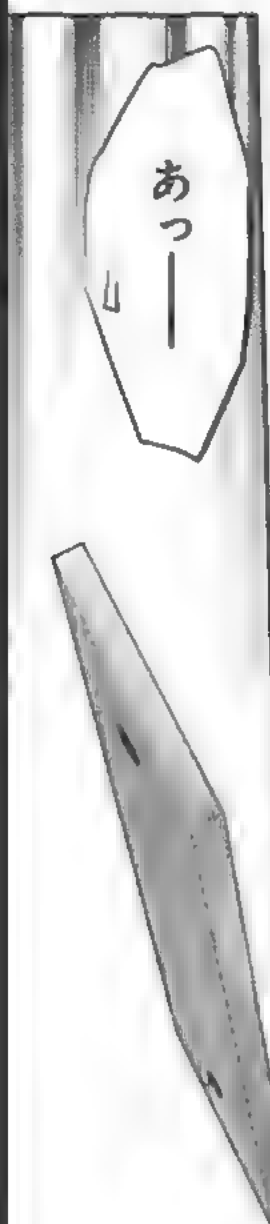
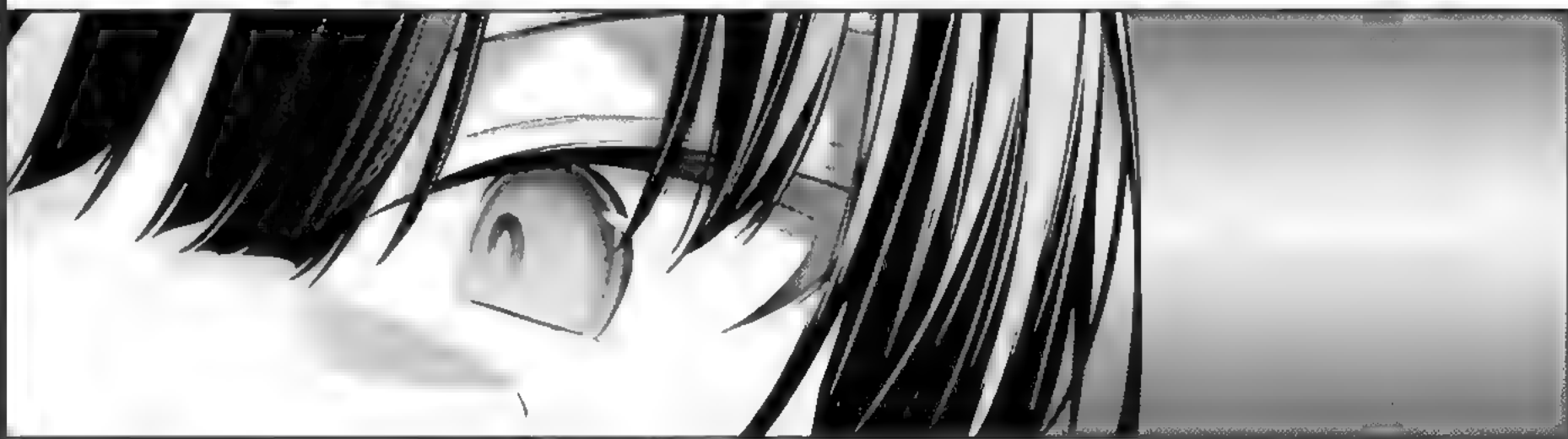
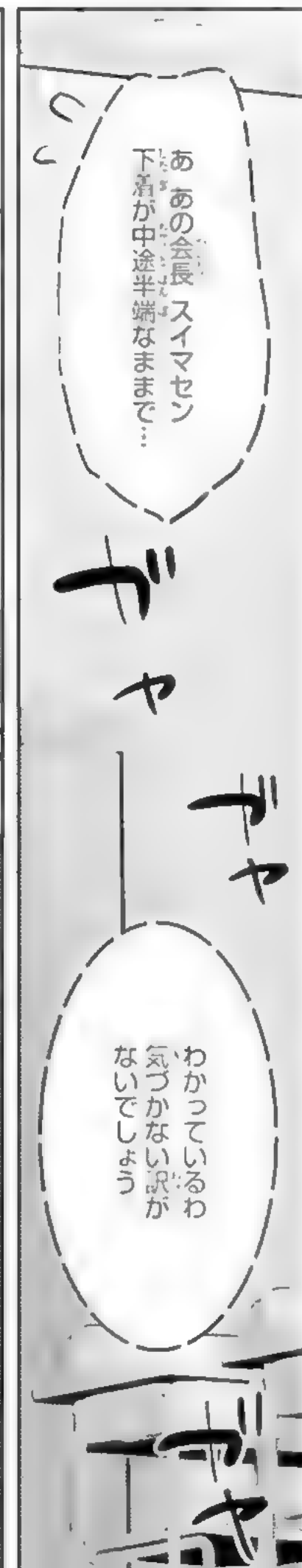
あ ありがと会長
気を付けてね？ はい どうぞ

あ あの会長 スイマセン
下着が中途半端なままで…

ガヤ ガヤ

わかっているわ
気づかない訳が
ないでしょう

対処済みよ

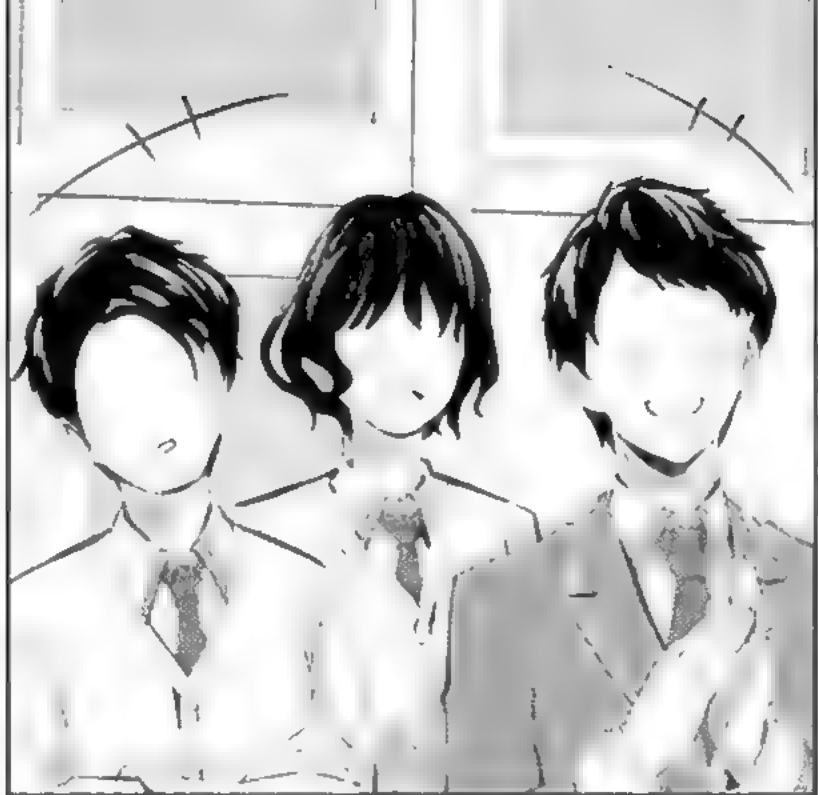
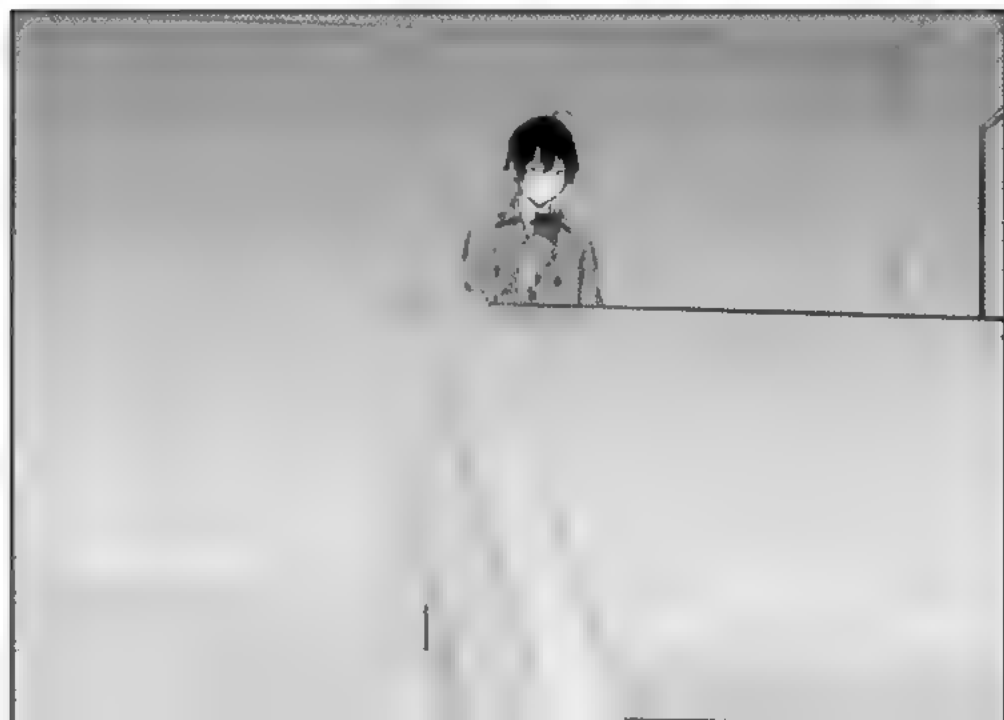
えっ?
い…いつの間に…!?

今さっき木片を
キャッチした際の開脚および
大、中臀筋、大腿筋膜張筋の
躍動により
定位置に戻したわ
次からはこういうことが
無いよう
素早く履かせなさい
のろ田君…
いえ 鈍間
最早あだ名でも
無くなった…
すげえ…
まあ…
そんなことより

準備の続きをしましょう
勿体ないわよ

？
は はい

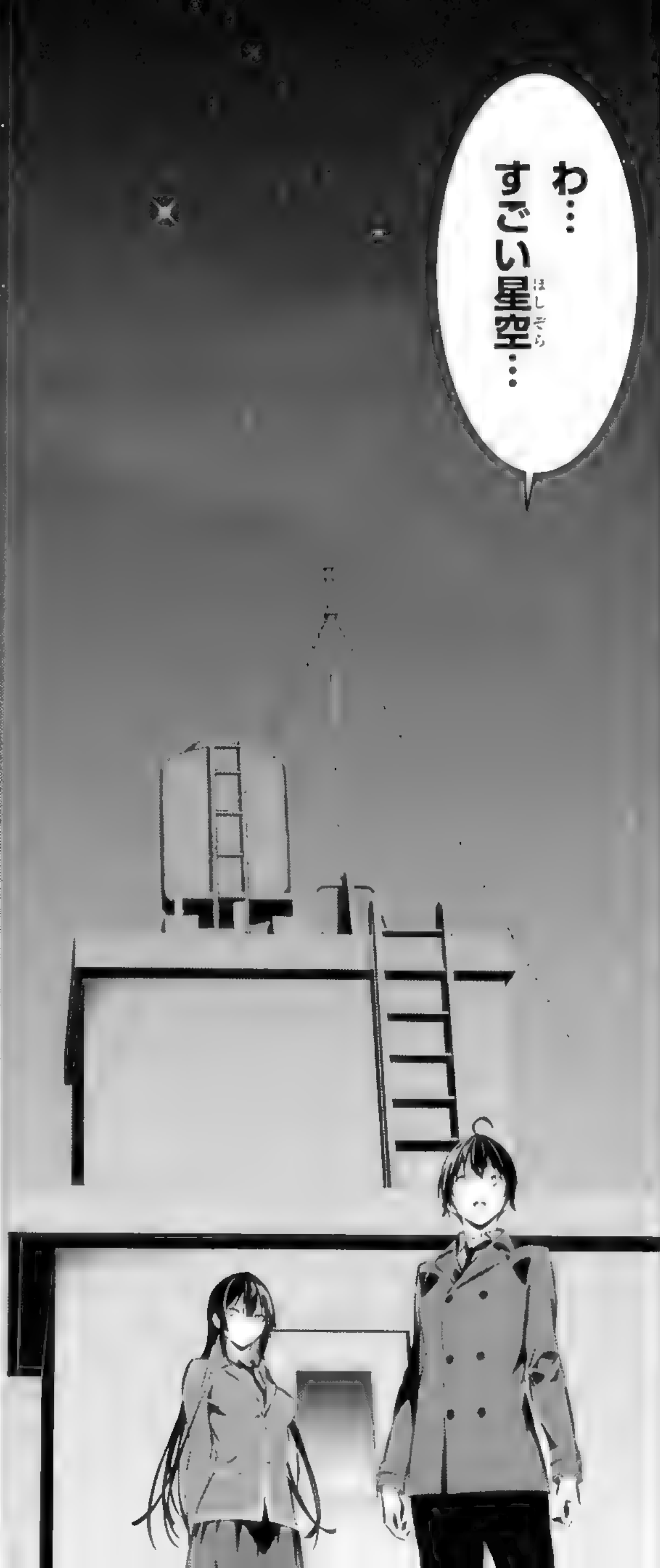
皆
本当にお疲れ様！
今日は早く休んで
明日に備えてね
明日の文化祭
楽しみましょう!!
おー

うわ
もう真っ暗だ…
早く帰ろ…
ザヤ
ザヤ
ザヤ

ヴヴッ
！

会長…こんなところで何の用だろう…
会長
A棟東側の屋上出入り口まで来なさい。
屋上のドアは施錠されてるはずだし
こんな袋小路で…
何か怒られるようなことしたかな…

あら 早いじゃない 感心ね

……何をびくついているの
説教されるとでも思った？
え？違うの？
…って あれー？

わ…
すごい星空…
でもどうして鍵を？
生徒立ち入り禁止のはずじゃ…
職員室で許可を得て借りてきたわ
…さすが生徒会長…

でも
どうして僕も
入れてくれたんです？
…だって
この景色を
ひとりで見るのも
味気ないじゃない
ちなみにあなたを誘ったのは
LIMEの履歴で一番上だった
というだけだから
何か期待させて
しまったなら
御免なさいね？
クス…
その点に関しては
大丈夫です
──それに…

こうやって遅くまで学校に残って——なんて
今年が最後かと思ったら…勿体なくてね
？
今年が最後？
来年の文化祭だってあるんじゃ…
来年 私達は受験でしょう？
この時期 10月後半のクラスの空気として遅くまで残って作業するほど大掛かりな出し物は選択しないはずよ
あ そうか…

る
私 前夜祭って好きなのよね——
何かが始まる前の
その過程の只中で感じる高揚感が
加えて今年は
使いやすいクローゼットが
手元にあったから
より歓を尽くせたわ
——じゃあ
もしかして…
会長が声を掛けてくれたのって
その高揚感を
味わえるように…？
こんなに白田君が
便利と知っていたなら
去年の文化祭から
クローゼットに
していたのに…
勿体ないことをしたわ
は…はあ…

それなら――
再来年がありますよ
……え？

大学でも会長の傍らでサポートするつもりですから
フイッ
…泊まりって…一体何の作業をするつもりなのかしら
いやらしい
うぇっ!? いいいや そんな意味合いは 全然!!

な…何この沈黙…気まずっ!!
なんかすごく恥ずかしいことを言った気がしてきた…!

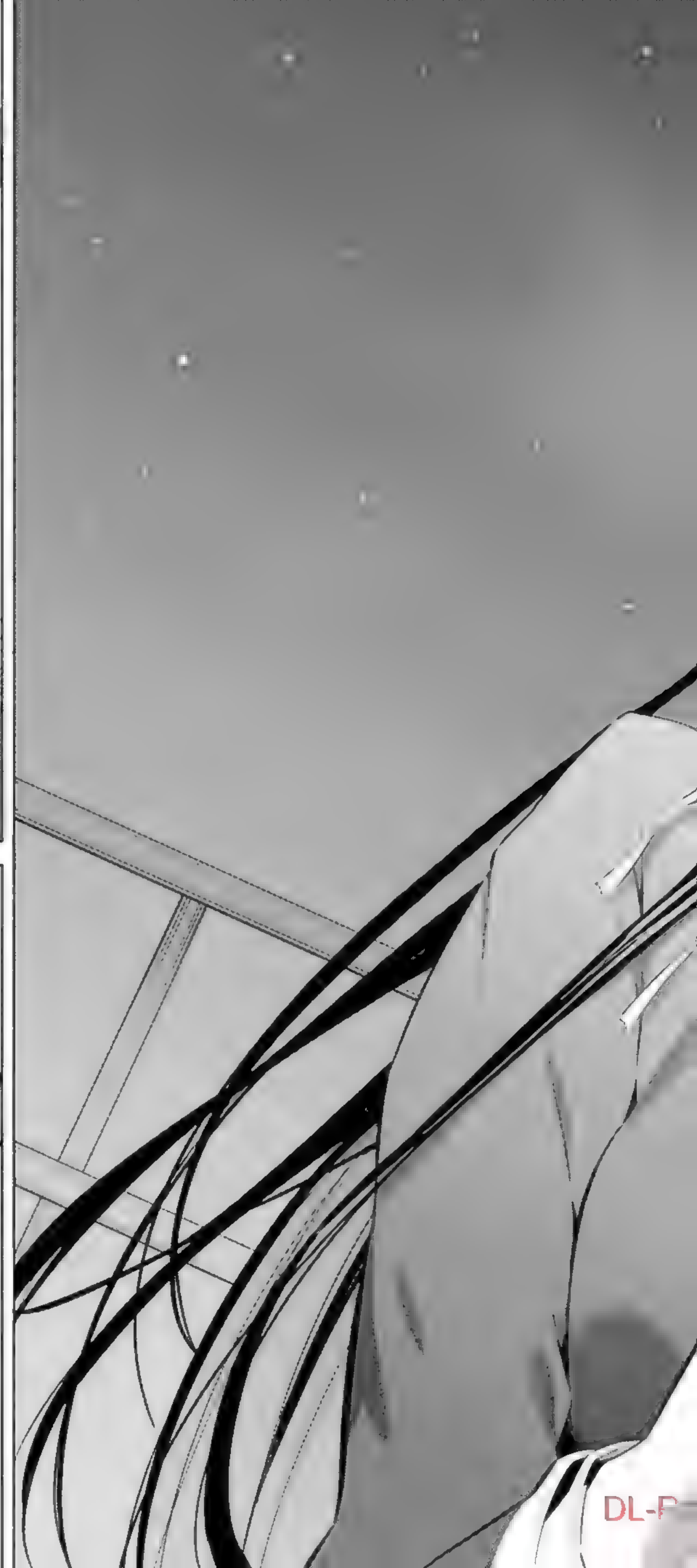
――私ね
はッはいッ!?

昔、シンデレラを読んだ時にね
反感を覚えたの
だって彼女
欲しているものがあるのに
受動的なままなんだもの
…？
何かを得たいのなら
能動的であるべきでしょう？
現実に魔法使いが
現れる訳ではないのだもの
でも、反感と同時に…
本当は
共感もしていたわ
勇気が出ないとか
プライドが邪魔をしたりだとか
大事なことならことなほど
動けなくなる——
与えられることを
待ちたくなる

…でも

今なら言える…
…いえ
今しか…言えないと思うわ…

ドッ
キューン
ドキ
わ…私…
私は…
……は………っ
ドキ
ドキ
ドキ

くちゅんっ
!
スイマセン会長…僕気づかなくて…
……
寒かったから引き揚げたかったんですね…!
…は…!?

遠慮しないで言ってくれたらよかったのに…！
手もこんな冷たくなって…
え…いや…違…っ
僕コート着てたから気づかなくてスイマセン…！
だから…っ
ファサ…
これ、着て帰ってください 風邪ひいちゃ大変だから…

ぎゅっ

……まったく……
言われなくても察しなさいよ
使えないわね…！
す…すいません…
結局 後に会長の述懐を聞くまで
僕はこの日の真意に気づかなかった
「魔がさした」とバツが悪そうに
はにかむ彼女を見られるのは
まだ先の話である
履いてください、鷹峰さん④ おわり

あとがき

この度は「鷹峰さん」四巻を手に取っていただき
ありがとうございます！
今巻では珍しく（？）巻をまたいで文化祭編が展開しています。
次巻は文化祭本番、どのようなお話になるのか…
ご期待いただければ幸いです。

細かい点ですが、
今巻では会長たちが冬服を着用しています。
連載開始前、学校の制服はワイシャツにしようか
セーラー服・学ランにしようか…と悩んでいたのですが
冬服の際にブレザーが描きたくて、このようになりました。
好きなんですよね、ブレザー…。
ブレザーに限らず、テーラードジャケットやコートとか、
ちょっとフォーマルでカッチリとした
構築的なデザインのものが好みなのです。
今から会長のコートはどんなのにしようか？
と考えております。

さて、三巻から半年たち
コロナの情勢においては、
ワクチンの開発などで明るいニュースも見られ始めましたが
それでもやっぱりかつての日常には程遠い生活が
続いているかと思います。

先が見えない状況で、それゆえに自制するにも
ストレスが溜まりがちな昨今ですが、
なんとかもうひと踏ん張り。。頑張りましょう。

それでは、ぜひまた次巻でお会いできれば幸いです！

柊裕一

Special Thanks

中川様
内田様
担当編集湯本様
並びに編集部の皆様

&YOU!!

次巻予告

haite kudasai takamine san

ありがとう。そう言ってもらえるなら喜んで引き受けるわ

パチ パチ パチ パチ

文化祭でシンデレラ役をやることになった鷹峰さん。

立候補はありませんか？

——!?

いつでもパンツを履かせられるよう接触の多い役に白田くんを立候補させたその狙いは??

NP・NB状態だったってことー―!?
では投票で決定したいと思います
無記名で投票をお願いします!
ちょっと柔らかくなったと思いきや相変わらずぶっ飛んだ白田くんへの指令も健在です!!
能力で「傘を持って来なかった」ことにしたわ
さて問題よ
私はパンツとブラ、どちらの下着を脱いで能力を使ったでしょう?
はい――!?
※単行本発売時のまま収録しています。
履いてください、鷹峰さん⑤
2021年秋頃発売予定

デジタル版　Ver.1.00

ガンガンコミックスJOKER

履いてください、鷹峰さん

4

2021年３月22日　Ver.1.00発行

著者
柊裕一

発行所
株式会社スクウェア・エニックス

装幀
前川真吾（バナナグローブスタジオ）

初出／月刊ガンガンJOKER
2020年9月号～2021年2月号掲載

<ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ>
スクウェア・エニックス　サポートセンター　http://sqex.to jp_manga_support
<ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、販売に関するお問い合わせ>
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

EXTRA CONTENTS‼ 表紙 表

※コミックス発売時の表紙 表を収録

EXTRA CONTENTS ¦¦ 表紙 裏

※コミックス発売時の表紙 裏を収録

EXTRA CONTENTS ‼ カバー裏

※コミックス発売時のカバー裏を収録